

バイスキーの操作（指導）時の注意事項

1 滑走時の操作（操作者（指導者））

（1）スピードの制御

バイスキーは急制動することが難しい構造で、後方から操作者（指導者）が制動用のロープを使用してスピードを制御することが必要です。

（2） バイスキーと操作者（指導者）の間隔

間隔が狭いと、制動が難しいとともに、操作者（指導者）のスキーがバイスキー本体やアウトリガーに接触して転倒する恐れもあります。

逆に間隔が広すぎると、他のスキーヤーがロープに突っ込む恐れが出てきますので、制動しやすい適当な間隔を確保することが必要です。

（3） 操作者（指導者）の人数

1人の操作者（指導者）が、スピードの制御、ターンの補助、他のスキーヤーとの安全確保を行うことは、体力的、技術的に負担が大きいです。

ゲレンデの状況、バイスキーヤーの技術レベル、操作者（指導者）の経験等に応じて、2～3人の操作者（指導者）により、安全な態勢をとることが必要です。

2 リフト乗降時の補助（補助者）

安全のため、乗降時にはできるだけリフトを停止してもらってください。

（1） リフト上部の業務

- ① バイスキーヤーがリフトから降りる時、ペアリフトでは操作者（指導者）が横に1人しか乗っていないので、必ず反対側で待機し、タイミング良く、操作者（指導者）が行うのと一緒にバイスキーを前に押し出しながら、リフトから降ろします。
- ② バイスキーの横のシャフトを掴みながら押し出すとやりやすいです。
- ③ 必ず操作者（指導者）のタイミングに合わせて行ってください。
- ④ まっすぐにバイスキーを押さないと転倒してしまう恐れがあるので注意してください。

（2） リフト下部の業務

- ① バイスキーヤーがリフトに乗る時に、ペアリフトでは横に1人しか乗れないので、反対側にもう1人が付いて、バイスキーを持ち上げながら、リフトに乗せます。
- ② バイスキー後上部のハンドルを持ち上げるとバケット（椅子の部分）が浮いて、そのリフトを挟ませます。
- ③ 操作者（指導者）と声を合わせてタイミング良く、思いっきり持ち上げないと、バイスキーがうまくリフトに挟まりません。